第４号　社会福祉法人　大三島育徳会（おおみしまいくとくかい）　広報誌

社会福祉法人
大三島育徳会
〒157-0077　世田谷区鎌田3-16-6
TEL 03-5491-0340
FAX 03-5491-0343
http://www.oomishima.jp/

せせらぎ

◆目次　INDEX◆

理事長あいさつ …p.1
シンポジウム ……p.2
映画上映会 ……p.3
地域支援 ……p.4-5
法人研修特集 …p.6
後援会報告 ……p.7
新ロゴマーク …p.8

喜多見区民まつりにおいて、新しいウインドブレーカー初お披露目

新年度にむけて

理事長　川道　襄司

新年おめでとうございます。

今年がみなさまにとって良い年になることを祈っています。

昨年、２０１５年「ノーベル生理学・医学賞」を北里大特別名誉教授大村智氏が受賞し、日本中が沸きました。大村氏が発見した化合物からつくられた薬がアフリカの風土病に効能を発揮し、２億人以上の命を救ったそうです。同様に印象に残る受賞があります。惣万佳代子（そうまん）氏が「第45回フローレンス・ナイチンゲール記章」を赤十字国際委員会から授与されたことです。惣万氏は「お年寄りも障害のある人も子供も一緒」で有名な「富山式デイサービス」〝このゆびとーまれ〟を、22年前に創設したＮＰＯ法人の代表です。富山式デイサービスは長く行政から評価されませんでしたが、今では多くの県に普及してきました。福祉・介護の現場で働く看護師が受賞するのは稀なことだといわれていますから、このニュースを聞いた福祉・介護職員はずいぶん励まされたと思います。

現在、福祉・介護人材不足が深刻化しています。社会福祉法人もその存在意義が問われています。また、昨年から今年にかけて、さまざまな福祉・介護に関わる制度が変わろうとしています。介護保険法、社会福祉法、生活保護法が改正され、「生活困窮者自立支援法」「障害者差別解消法」が施行されます。安部首相は『介護離職ゼロ』を〝新三本の矢〟のひとつに掲げており、福祉・介護に関わる政策が財政的にも転換期を迎えています。つまり、社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変わろうとしているのです。

フローレンス・ナイチンゲールが「天使とは美しい花をまき散らすものではなく、苦悩する者のために戦う者である」と述べています。私たち福祉・介護に携わる者も戦わずして人の命や苦悩する人々を救うことはできないでしょう。大三島育徳会は大村氏、惣万氏には遠く及びませんが、その姿勢をお手本として日々の地道な積み重ねをつづけて困難と戦っていきたいと思います。

全国大会　シンポジウム

大三島育徳会 常務理事　田中雅英

平成27年11月11日から3日間、第72回全国老人福祉施設大会・東京大会が開催されました。最終日にあたる13日、両国国技館において「シンポジウム＝超高齢・人口急減社会、迫る大都市医療・介護崩壊―課題先進国・日本の危機を超える―」が行われ、シンポジストとして参加しました。

コーディネーターは産経新聞論説委員、他のシンポジストに内閣参事官、豊島区長、南伊豆町の施設長、高知大学地域連携推進センター長が登壇しました。私が発表したテーマは、「ストップ ザ 介護崩壊!!東京版ＣＣＲＣ創設へ」です。都内の介護保険事業をとりまく厳しい状況とその要因、そして対策について述べました。内容の一部要約を掲載します。

日頃の思いを熱弁する田中常務理事

1 都内における介護人材不足の深刻化

「特に新卒の介護士の確保が難しくなっています。親も先生も介護の仕事をすすめないからでしょうか。中学・高校の教科書にも『介護の仕事は重労働で低賃金』と記述されています。介護の仕事は社会的評価が低く、先を見とおすことができないというレッテルが貼られているのです。地方の特養は役場とならんで優良企業の代名詞といわれているのと対照的です」

2 地方優位の逆格差の実態とその要因

「同様に施設不足も顕著です。大規模施設の特養も小規模の認知症高齢者グループホームも整備状況は全国最低クラスです。高齢者ひとりあたりの整備率がどれだけ違うのかということも国会で論じてほしいと思います。つまり、ヒト、モノ、カネは東京一極集中といわれる中、介護や福祉は地方が圧倒的に優位という現状があるのです。要因は、介護報酬に東京の高い人件費、家賃、物価水準が反映されていないためであることは明らかです」

3 対策の提言

①次期介護報酬改定において第5期（平成23～26年）の水準以上に引き上げる

②介護報酬の上乗せ割合に物価や家賃を勘案する

③介護報酬における人件費率を全国一律の45％から都道府県ごとの人件費率に見直す。

4 東京版ＣＣＲＣ創設

「介護保険制度創設以来、この逆地域格差はずっと放置されてきました。つまり都内の介護人材不足も施設不足も、容易に解決することができない根が深い問題なのです。そういった状況下、東京圏のお年寄りにいきなり『地方に移住しなさい』はいかがなものでしょうか？ 日本版ＣＣＲＣ※で地方に移住するのもあくまでひとつの選択肢としては容認されるでしょう。でもその前に都内での選択肢を増やすことも必要だと考えます」

5 東京版ＣＣＲＣのメリット

「東京都下であれば家族や友人との人間関係を維持できる距離でもあり、せめて都内にという希望に応える選択肢になるかと考えます。地方よりも交通網が発達している、医療機関、教育機関へのアクセスが良い、就労の場も得やすいというメリットがあります」。ハードルは高いと思いますが、複数の社会福祉法人、医療機関、大学、自治体などが協力すれば十分可能だと考えます。

6 女性が活躍する社会の創造

「福祉・介護の人材不足については、注目すべきは人口減ではなく、働く人口減でしょう。特に、働く女性を増やすのが最優先だと思います。男女共同参画といいながら、年間10万人以上の介護離職者の76％が女性です。女性が活躍する社会を実現するためには、もっと多くの女性が国の制度や政策の決定の場に参画しなくては難しいのではないでしょうか」

全国大会の場で、都内における厳しい福祉・介護の実態を訴え、対策を提言できたことは、制度の是正に向けてたいへん有意義であったと確信しています。

※日本版ＣＣＲＣ（Continuing Care Retirement Community）　正式名称：「生涯活躍の町」。東京圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活をおくるとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指すもの（日本版ＣＣＲＣ構想有識者会議）

障害局

『みんなで映画が観られたよ！』

玉川福祉作業所

以前から願っていた「映画館でみんな一緒に映画を観る」ことが実現しました。

かねてから受託作業を受注していた株式会社白組の早船プロデューサーからお話しをいただき、東映株式会社の協力を得て「109シネマズ二子玉川」のスクリーンを貸し切り、白組制作『ＧＡＭＢＡ―ガンバと仲間たち』を鑑賞しました。この上映会は、賛同いただいた株式会社アイビス・キャピタル・パートナーズ代表取締役中條（ちゅうじょう）喜一郎氏のご厚意により実施することができました。

せっかくの機会なので、世田谷区障害者地域生活課を通して近隣の障害者施設にも声掛けしていただき、7施設125名が一堂に集まりました。大きなスクリーン一杯の迫力に利用者の皆さんも大満足だったかと思います。また、朝日新聞社の記者もこの企画に関心を持たれ、利用者が物音もたてずに真剣に観ている様子を記事にしてくれました。

新しい映画館で興奮気味の皆さん

ご協力いただいた企業の方からも「利用者の皆さんに喜んでいただけたので、本当に良かった」と感想がありました。

多くの方々の暖かい思いが繋がって、長年の夢が実現できました。ありがとうございました。

トピックス

～ホームいろえんぴつ　開設５周年記念行事～

お楽しみ外食会・回転寿司に行こう！

ホームいろえんぴつは今年７月、開設して５年目を迎えます。開設当初から入居している利用者７名は、今も変わらず元気にいろえんぴつでの生活を楽しんでいます。５年の間には、一人一人が外部の移動支援サービスと契約を行い月１、２回外出ができ、いろえんぴつの生活が豊かになりました。さらに、行事や共同生活のルールなどを利用者が自分たちで決められるよう、「自治会＝スケッチブックの会」を立ち上げ自主活動しています。「スケッチブックの会」で、ホームいろえんぴつ５周年記念で何をしたいか話し合い、利用者からは回転寿司に行きたいと希望が上がり計画しました。そこからは行事担当の職員も下見やオリジナルチラシの作成、注文の方法など手伝って、盛り上げていきました。

11月３日良く晴れた祝日、店舗までの路線バス内では寿司ネタの話が飛び交いました。店内の広いボックス席でゆったりと美味しいお寿司を味わいました。タッチパネルで注文すると作りたての寿司がレールに乗って届きます。いつものホームでは経験できない食事に話題も尽きず、職員は利用者とコミュニケーションを深める事ができました。好みの寿司やデザートまで堪能した利用者は大変満足そうな表情でいろえんぴつに帰って来ました。

全員そろって寿司パーティー

５年目のお祝いに相応しい、利用者にも職員にも心に残る行事になりました。今後もさらに、利用者のために何が出来るか、どんな支援がふさわしいのか、利用者主体にサービス提供できるように職員一同頑張っていきます。これからもホームいろえんぴつをよろしくお願いします！

地域支援

喜多見地区　区民まつり

11月３日文化の日に、「第36回 喜多見地区区民まつり」が喜多見小学校で開催されました。

法人は地域交流の場として、昨年に引き続き４回連続の参加となり、出店では玉川福祉作業所の販売と喜多見だんちデイの啓発活動を行いました。今回初めて法人スタッフ全員がウインドブレーカーを着用し、青地に黄色い文字と法人ロゴマークが色鮮やかで、高齢局・障害局の職員同士が連帯感を持って参加できました。

出店では玉川福祉作業所のたまビカクロスやオリジナルのコースターや鍋敷き、鞄、お味噌を販売しました。一番人気は手作り缶バッチコーナーでした。かわいいイラストに名前を書いてプレスして出来上がります。一緒に参加した利用者が目の前で作る缶バッチに、小学生等はみんな興味津々で、たくさんの交流ができた上に持ち込み分 100 個完売しました。

また、町会自治会の皆さんの出店は、焼きそばや豚汁、チョコバナナなどが売られ、行列ができるほどのにぎわいでした。校庭の中央ではやぐらが組まれ、高齢者クラブの踊りや地域の小学生たちの和太鼓、フラダンスなどが披露されていました。「喜多見だんちデイ」のある喜多見団地の自治会や喜久寿会（高齢者クラブ）の皆さんも参加されており、お互いに声を掛け合いながら楽しい時間を過ごすことができました。

地域住民総出の一大イベントに参加

認知症カフェ

国は 2012 年に作成した「認知症施策推進５カ年計画（オレンジプラン）」のなかで『認知症カフェ』の普及を推進し、世田谷区にもすこしずつ広がっています。さらに、2015 年１月「新オレンジプラン」により、平成 30 年度からすべての市町村に認知症カフェを設置するという目標が設定されました。

そのような背景のなか、2014 年９月『タガヤセ大蔵デイ』は、「デイサービス＋αの寄合所」をテーマに開所しました。デイサービス横の小さなスペースを使って、毎月一回認知症カフェ（タガヤセカフェ）を始めました。

タガヤセ大蔵デイにて

最初の認知症カフェ参加者はデイサービスご利用のご家族と、ボランティアさんが来店してくれました。これからこの認知症カフェをどうしたら良いかご相談すると、「身近で話が出来る場所があるのはうれしい」「夕方ではなく、昼間にも開催してほしい」「いつ来てもいいのか」という声がありました。

認知症カフェには当事者、介護者、行政、地域包括支援センター員・民生委員・社会福祉協議会、ケアマネージャー、福祉従事者等いろいろな方が参加下さりさまざまな意見やアドバイスを頂戴しました。タガヤセ大蔵デイに行けば相談することが出来る。誰かが待っている。という場所として地域に認知されていくことが大事だと気付きました。認知症カフェを継続することで、コミュニティー関係の強い地域が生まれると考えます。タガヤセ大蔵デイの事業所理念である、「あなたがあなたらしく生活できるように　地域をタガヤします」を目標に、これからもこの大蔵地域で認知症カフェを発展させていきます。

ぬくぬくハウス

地域共生のいえ「ぬくぬくハウス」は、地域社会で暮らすみんなの触れ合いスペースとして 2015 年９月にオープンしました。

「ぬくぬくハウス」がめざすのは、地域社会が少しでもよいものであるように、地域住民それぞれが持っている力を集め、共に生きることをたのしめるような身近な関係を創っていくことであり、その拠点づくりです。人生や生活をたのしみ、みんなで幸せになりたい…。「ぬくぬくハウス」はそんな触れ合いをする場所でありたいと思います。

こどもの居場所＝こどもぬくぬく、おとなの学校＝おとなぬくぬく、多世代交流＝まぜっこぬくぬく、として、夏は井戸で打ち水、流しそうめん、冬はお餅つき大会、また、地域の歴史を学び、認知症講座を開催し、おしゃべり映画会、ふわふわシホンケーキ作り、そして世田谷区長保坂さんと話そう会など、いろいろな企画を実行しています。

玉川福祉作業所の皆さまとは、ともに地域福祉のまちづくりで連携し、情報交換やお互いのイベント参加を重ねて交流を深めています。ぜひ、イベント開催時にはご参加ください。

世田谷区長
保坂さんと
話そう会

ぬくぬくハウスに
スタッフ全員集合

（「地域共生のいえ」とは、オーナー自らの意思により、地域の公益的かつ営利を目的としないまちづくり活動の場として、地域のきずなを育み開放性のある活用がなされている私有の建物のことです。一般財団法人 世田谷トラストまちづくり が「地域共生のいえ」づくりを支援しています。）

＊連絡先：世田谷区玉川 1-2-3　電話 03-3707-0037
　オーナー：温井克子
メール：tamagawa123 @ nukunuku-house.com
ホームページ：http://www.nukunuku-house.com/

秋の多摩川癒しの会　芋煮会

11月８日に、法人特養「博水の郷」で芋煮会を開催しました。この活動は、法人が事務局を務めている「多摩川癒しの会」で行っているイベントで、普段なかなか地域に出ることができない障がい者や高齢者の方々の社会参加を目的とし、多摩川の河川敷で毎年年２回行っています。春は「野草を食べる会」、秋は「芋煮会」と決まっていますが、開催時期がちょうど季節の変わり目であることと河川敷という場所もあって、あったかい芋煮汁とせんべい汁は大好評で、毎回大鍋で作るのですが最後はからっぽになってしまいます。

今年はあいにくの雨模様だったため河川敷で開催することができず、急きょ博水の郷に会場を変更することにしました。天候不安により突然の変更になってしまったのですが、30人余の方が参加して下さいました。今年は例年に比べると気温が高めでしたが、当日は雨が降ったことで芋煮を食べるにはちょうどよいくらいの少し肌寒い程度の気温になり、また偶然ではありましたが、博水の郷にいらっしゃっていた「東京お手玉の会」の方々も参加してくださって、芋煮を食して頂いた後は一緒にお手玉を楽しませていただきました。

食事会の合間にお手玉の妙技を観賞

法人研修特集

レポート1 接遇セミナーに出席して

真剣なまなざしで研修中

10月４日、今年２回目の接遇セミナーに出席しました。初回は法人新任研修でしたが、今回は中堅職員向けの内容でした。介護サービスを提供する上で必要な接遇や、基本的なコミュニケーション技術を学びました。

主な内容は、対人援助における基本的な“挨拶”を学び、参加者同士で見比べて笑顔や動作・距離感を確認し合いました。接客をする時に、第一印象が何よりも大切なことであると再確認しました。次に、“コミュニケーション技術”について実践しました。相手が気持ちよく話ができるように、私たちが話し方の工夫をしていく必要があることを学びました。

研修を終えて、福祉サービスを提供する従事者として、普段から常に接遇に関して意識していることと、相手の気持ちに寄り添った環境を作ることの大切さに気付きました。現場の職員と共有しながらより良いサービスに繋げていけるようにしたいと思います。

レポート2 他施設間交流研修について

法人として、人材育成スキルアップ研修の一環で、他施設間の交流研修に力を入れてきました。他施設を見学し、交流することにより、職員の視野を広げ、日頃のサービス提供を行う際の悩みなどを話し合うことで、より良いサービスにつなげることが目的です。

昨年 10月と 12月に、八王子市の特別養護老人ホーム「小松原園」との交流研修を行いました。施設ハード面の特徴やソフト面の取り組みを実際に目で確認することができました。

また、サービスに関わるリーダーとの意見交換が行われ、ご利用者へのサービス提供時の工夫など双方の取り組みを共有できました。

本研修を通じて、「博水の郷」で取り組んでいるサービスについて改めて考えるきっかけになりました。現状に満足することなく、より良いサービス提供を目指していきたいと思います。今年度は、さらに近隣３施設での交流研修を予定しています。より多くの職員交流が実現できるように取り組んでまいります。

レポート3 救命講習

人工呼吸の実施訓練

1月23日、「博水の郷」にて『普通救命講習』を行いました。

毎年、成城消防署と連携して講師をお願いし、応急手当指導員の方に博水の郷までお越しいただき、４時間の規定講義を実施していただきました。

応急手当や心肺蘇生といった技術に加え、人形を使ってのＡＥＤ操作や、実際、現場に遭遇した際に自らどのような行動が求められるかということなどを、しっかりと教えていただきました。

終了後は受講者全員に「救命技能認定証（自動体外式除細動器業務従事者）」が交付されますが、法人では知識・技能の維持向上のために、東京消防庁から推奨されている３年に１回再講習も受けるように勧めています。

介護福祉施設業務の性質上必ず求められる技能なので、今後も全職員を対象にして講習を実施してまいります。

レポート4 障害局職員研修

「いけぶくろ茜の郷」の実践を聞き入る

玉川福祉作業所では、法人内研修とは別に利用者休業日等を活用して、年２回、「職員全体研修」を行っています。今回は10月５日の研修を紹介します。

午前中は池袋にある「いけぶくろ茜の郷」の施設見学をしました。玉川福祉作業所と同じ就労系のサービスの他、生活介護支援、施設入所支援、短期入所と多くの事業を展開していて、利用者の「なりたい生活」や障害程度に応じて、幅広いサービス提供がなされていて良い刺激を受けました。

午後からは作業所にもどり、「高齢障害者への対応」について研修しました。高齢期支援に実績のある「のぞみの園（高崎市）」から講師を招き、高齢になっても生きがいや張り合いのある生活が送れるよう新たな暮らしの提案が重要と学びました。

職員全員で同じ研修を受けることは共通の方向、共通の理解を得るよい機会になっています。

「後援会せせらぎ会」の活動報告

平成27年11月26日（木）後援会役員会において、せせらぎ会から大三島育徳会に『ソフトクリームマシン』の寄贈がありました。後援会から法人への物品贈呈については後援会発足時から懸案になっており、会員の皆様からもいろいろなアドバイスをいただいておりました。

今回役員会で検討した結果、法人が地域でさまざまなイベントに参加していることもあり、移動式で簡単にソフトクリームが作れたり、法人内喫茶や玉川福祉作業所利用者会で活用できたりするソフトクリームマシンに決定しました。

御園生会長から川道理事長に贈呈

当日は後援会役員および法人本部事務員が見守る中、御園生（みそのお）後援会会長から川道理事長に「ソフトクリームマシン」２台が寄贈されました。施設の行事やご利用者のレクリエーションなどに活用していただければと、後援会会員の願いを込めて贈呈しました。

これからも「後援会せせらぎ会」は法人をバックアップしていきます。

10月３日（土）は「玉福まつり」、10月18日（日）には「博水の郷文化祭」と、「せせらぎ会」として２回、お祭りに参加しました。

今回は、グループホーム上砂親の会『ルピナス』（立川市）が提供してくれた手工芸品販売に加えて、障害者施設「のぞみ園」（大田区）が製作したアクセサリーの販売もできました。どれも素晴らしい作品で、みんな喜んで購入していきました。

また博水の郷文化祭恒例のバザーでは、会員の皆様によるユーモアあふれる呼び込みやセールスのおかげで飛ぶように売れていきました。お祭りへの参加は今回で3年目となりますが、年を重ねるにつれて上記のように内外の協力者が増えてきているのをみると、後援会の存在が少しずつ皆様に浸透してきているのではないかと嬉しく思います。

にぎわうバザー会場

＜今後の予定＞

４月７日（木）役員会
４月21日（木）平成 28 年度総会

◆振込金融機関◆

金融機関　ゆうちょ銀行
口座番号　10000　15181181
口座名義　せせらぎ会

法人後援会「せせらぎ会」会員名簿（敬称略）　平成28年2月1日現在

◆個人会員

阿久沢 佐喜子
浅野 久美子
浅野 朋子
朝日 實
荒井 千恵子
新井 永子
荒井 ひろ美
荒木 哲郎
石野 正子
伊藤 恵美子
伊藤 清子
稲田 純一
稲田 道子
岩谷 八重子
上田 晋之
大角 謙介
小田 かよ子
小野 途子
小野 裕次郎
加治木 博子
片桐 恵子
金井 芳子
河原 實
川道 英弘
喜島 大道
木村 秀男
木村 真樹
久世 まゆみ
久世 良三
熊谷 芳子
倉井 葉子
小泉 珠子
古川 利恵
小嶋 みやこ
小林 義一
小松 幹雄
小宮 富美子
近堂 和明
近堂 啓子
坂井 祐
坂井 義明
佐藤 進
佐藤 朋巳
澤野 由子
鈴木 崇
鈴木 昌子
鈴木 保正
高井 綾子
高比良 淑子
多喜 貞子
武井 久子
田中 千鶴子
田中 英雄
田中 雅英
田中 美佐
田中 瑞枝
塚越 夫美恵
津田 靖久
綱島 勝良
綱島 スエ
角田 直子
寺本 恵理
寺本 マサオ
富張 幾久恵
富張 嘉則
中島 孝記
中村 友子
夏目 多起子
根岸 喜良
根岸 久美
芳賀 佐和子
早川 ゆき
林田 明美
林田 繁
原 佳子
檜垣 宮子
比留間 孝子
藤木 敏子
藤本 利治
堀口 清則
松川 政代
松本 惠子
松田 フミ子
松村 朋子
松山 正作
松山 俊之
緑川 美佐子
宮下 裕司
村上 康子
室 清
馬渡 澄子
森田 裕子
門間 正子
安田 耕平
安田 生
安田 登
安田 ハルエ
安田 護
矢野 弘枝
山岸 久子
山口 晃
山口 信光
山口 美恵
山崎 正子
山下 七郎
山下 純子
山本 聡子
八本 鈴美
渡辺 由美子
和田 雅世
他 匿名 27 名

◆団体会員

株式会社アイテックス
NPO 法人はあと世田谷
株式会社ファミック
鎌田南睦会
カトリック礼拝会
株式会社松陰会館
他 匿名１団体

新ロゴマークが完成 !!

社会福祉法人大三島育徳会の新ロゴマークが完成しました。

昨年、創設15周年を迎え、法人が地域の皆さんに、より一層親しみを持っていただくために新たに作成しました。このロゴマークは、ご利用者、ご家族・保護者、職員の方から寄せられた51点の応募の中から選ばれました。選考委員には専門のデザイナーにも参加してもらいました。一次・二次選考を経て、最終選考に残った三作品の中から、玉川福祉作業所の緒方円支援員の作品が最優秀賞に決定しました。お披露目と表彰式は職員全体会議で行われ、田中常務理事より最終三作品受賞者に賞状と賞金が授与されました。

社会福祉法人
大三島育徳会

このロゴマークは

大三島の『大』の文字をデザイン化し、『丸』は三つの島をイメージしました。そして、使われている色にはそれぞれ意味があります。「青」は空と清流の流れ、「赤」はぬくもり、「緑」は安心とやすらぎ、「黄」は希望を表わしています。「地域に根ざした社会福祉」という法人の理念を表わしている大の字（＝大地に根ざす）が「地域の皆さまの傘」になるという思いも込められています。

新しい年の始まりと共に法人ロゴマークを一新し、三色の丸の調和が無限の可能性を生み出し、地域の皆さまに浸透していくよう活動していきたいと思っています。どうぞ末永く可愛がって頂ければと思います。

また、同時に、優秀賞に選ばれたデザインをイベント用ウインドブレーカーのマークとして採用しました。今後、職員がイベント参加や地域活動の際に着用し、地域の方々により知っていただけるよう活用していきます。

選考委員長　青柳浩司

受賞者の皆さん（左から藤波さん、緒方さん、大矢さん）

◆10周年勤続職員　表彰式◆

昨年12月、法人職員全体会議において「永年勤続者表彰式」が行なわれ、11名が表彰されました。法人では、永年にわたり勤務し、法人の発展と地域福祉の展開に尽力された職員の功績を称えることを目的に毎年実施しています。

現在、新聞、テレビで取り上げられているように、「人材不足」が高齢者介護だけではなく、障害者支援にも大きな問題となっています。現在、都内では離職、転職する人が多く、定着が進まない状況が続いています。当法人では勤続年数が10年になる職員を表彰し、定着につながるよう士気高揚を図っています。

当日は、田中常務理事より感謝状と金一封が贈呈され、一人ずつこの間の振り返りや今後の抱負について語ってもらいました。皆さん一様に「あっという間の10年でした。これからも頑張ります」と言っていたのが印象的でした。

表彰された皆さんの永年にわたる貢献に心から感謝いたします。ありがとうございます。今後も健康に留意され、法人の発展にさらに寄与していただきたいと思います。

- 佐藤朋巳（在宅サービス部）
- 久米井 修（タガヤセ大蔵）
- 山田 浩（やまぼうし）
- 比留間孝子（障害者支援局）
- 金子リカ（デイサービス博水の郷）
- 山中絹代（博水の郷）
- 伊藤雅美（博水の郷）
- 小林砂千子（博水の郷）
- 高野陽子（フォルテ）
- 神部千鶴子（やまぼうし）
- 渡辺和美（やまぼうし）

（順不同）

せせらぎ　第4号

発行日　2016（平成28）年2月26日
発行者　せせらぎ広報編集委員会
発行所　社会福祉法人　大三島育徳会
〒157-0077　世田谷区鎌田3-16-6
TEL 03-5491-0340
FAX 03-5491-0343
http://www.oomishima.jp/

「使用した掲載写真は、ご本人とご家族・関係者の同意を得ております」

編集後記

新年のご挨拶を申しあげます。昨年中は、さまざまなご支援を頂きまことにありがとうございました。今年も皆さんに楽しく読んでいただけるよう努力いたしますのでよろしくお願いいたします。法人としても、笑いの溢れた良い年にしたいと思っています。お気づきになった方もいらっしゃるかと思いますが、玄関に『笑門』（笑う門には福来る）の松飾りが飾ってあります。これは家内安全を祈って1年中「しめ飾りを」飾る伊勢地方に倣ったものです。大三島育徳会は地域活動や地域貢献事業に積極的に取り組んでいます。これらが地域のみなさまの笑顔を増やすことにつながれば幸いです。今号にそうした地域との連携を掲載させていただきました。

昨年7月頃、降ってわいたように行政から玉川福祉作業所の移転という話がありました。これに対しては地域の皆さんのご理解とご支援により見直しすることができました。ありがとうございました。今後も地域の皆さまと共に地域福祉活動を展開していきたいと願っています。（H）